

平成23年度 大学の世界展開力強化事業構想の概要【米国大学等との協働教育の創成支援】

大学名	立命館アジア太平洋大学
構想名称	APU-SEU グローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで
相手大学等名 (国名)	セント・エドワーズ大学(アメリカ)

【構想の目的及び概要】

1. 構想の目的

本構想は、教養教育・生涯教育に定評のある米国大学との協働教養プログラムを開発し、入学前から卒業時まで、一貫または連続する体系的な教養教育を提供し、教養教育と専門教育との連関性をもたせることにより、「普遍的な物の見方、考え方」「全体像を俯瞰する力」「物事の本質を汲み取る力」「物事を深く考える思考力」を形成し、現代社会に生起する諸問題・諸課題を的確に捉え、適切且つ柔軟に対応し、世界の平和と持続的な発展に寄与する人材を育成することを目的とする。学生のモビリティ(米国と日本との双方向交流に加えて、第三の場所における対等な学修環境も形成)を高め、学生同士の相互の学びあいを通じ、異文化理解力、コミュニケーション力を備えた真のグローバル人材育成を目指す。

2. 構想の背景

立命館アジア太平洋大学(以下、APU)は、開設より10年間の国際大学としての成果を踏まえ、次の10年を見据えた中期計画『APU2020』を策定し、「教養力」「多文化適応力」「人間力」を有し、アジア太平洋地域の未来創造に貢献する有為の人材育成をミッションとして掲げている。そのミッションの実現のために、正課・正課外、国内・国外での多様な学びのコミュニティにおいて多文化環境を確保し、国際競争力のある教育を実践することが求められている。

本構想におけるパートナー大学、米国の私立セント・エドワーズ大学(以下、SEU)は、生涯学習を重視する観点から教養と専門のバランスの取れた教育を展開しており、主に教養教育の評価の高いリベラル・アーツ大学である。国籍、文化・社会的背景、年齢、宗教等の異なる多種多様な学生を受入れ、国際的な教育を展開していることや、SEUの基本理念—「平和」「奉仕」「ヒューマニズム」は、本学の多文化環境や基本理念「自由・平和・ヒューマニズム」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」に通ずる。平成19(2007)年より学生・教職員の交流を進めてきた実績を下地として、それぞれの強みを活かした協働教育を開発・展開することが可能である。

3. 構想の概要

積み上げ式協働教養プログラムと協働ダブル・ディグリー・プログラムを実施する。

(0) 両プログラム共通・入学前留学プログラム ※○数字は、構想の概念図に対応。

①入学前留学プログラム:入学直前の3月に、アメリカへ短期留学し異文化体験をさせることにより、大学4年間の学びや英語学習の目標を設定させる。(APU 入学確定者対象)

(1) 積み上げ式協働教養プログラム:下記②～⑤は、各大学の強み、学生の特色(各大学の初年次教育の成果)等を活かしながら、自大学と相手大学、または第三の場所(タイ・マレーシア)において、多様で幅広い教養教育を学ぶプログラムである。

②グローバル・コミュニケーション・プログラム(APU 学生が SEU へ)

③Business in Japan プログラム / ④ゲートウェイ・プログラム(③④ともに、SEU 学生が APU へ)

⑤Southeast Asian Studies プログラム(APU・SEU 学生共同/タイ・マレーシアへ)

(2) 協働ダブル・ディグリー・プログラム:両大学で開講される教養教育と専門教育(社会科学・経営学分野)を体系的に学び、4年間で両大学の学位取得を可能とするプログラムである。

(3) 両プログラム共通・学びの統合プログラム

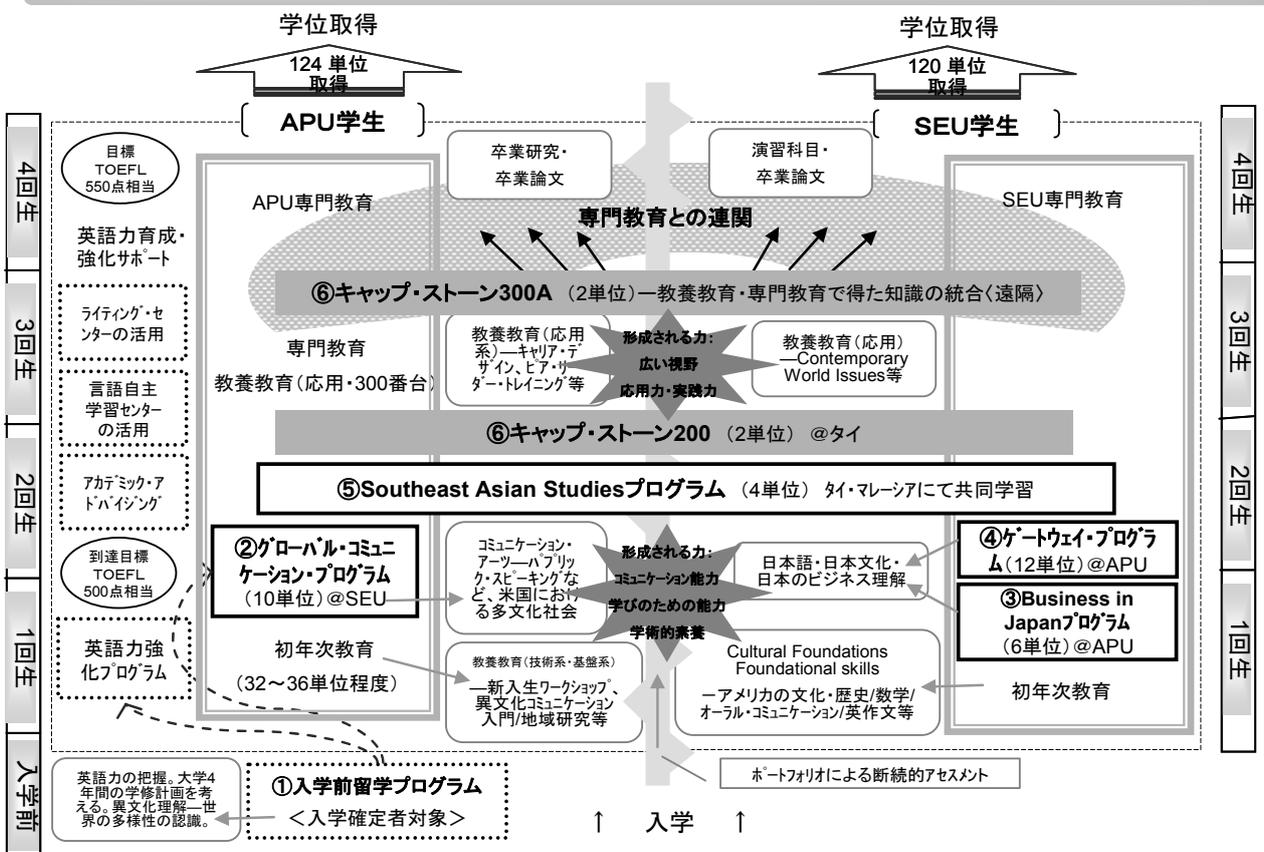
⑥キャップ・ストーン科目:両大学の教員がアドバイザーとなり、段階に応じ、教養教育で得た知識や能力の統合を図る科目(単位化)を新設する。

上記のプログラムを通じたラーニング・アウトカムズとして、言語力、コミュニケーション力、異文化理解力、広い視野と実践力・応用力、批判的・創造的思考力等を置き、プログラム毎のラーニング・ゴールを設定するとともに、到達度を検証する仕組みを置く。また、質の保証(成績評価や単位認定)のあり方や、米国と日本との双方向に限定されない応用型プログラムのモデル提示等を通じ、日本の大学の国際化を牽引する教育の実践に繋げる。

平成23年度 大学の世界展開力強化事業の概要【米国大学等との協働教育の創成支援】

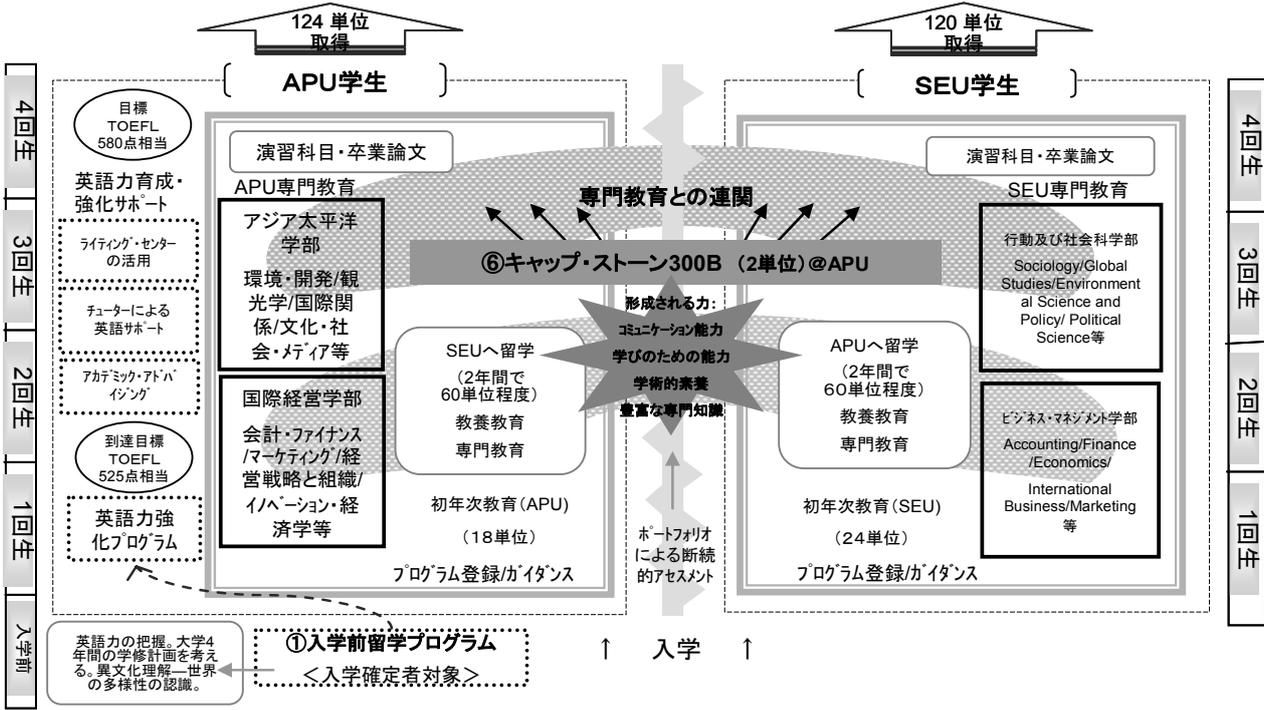
[構想の概念図]

1. 積み上げ式協働教養プログラム



2. 協働ダブル・ディグリー・プログラム

両大学の学位取得: 学士(アジア太平洋学) + Bachelor of Arts / 学士(経営学) + Bachelor of Business Administration



平成23年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	立命館アジア太平洋大学
タ イ プ	B-I
構 想 名	APU-SEU グローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで
<p>〔評価コメント〕</p> <p>米国の大学と真の「協働教育」を行うことを目指しており、先導性も高く、本事業の趣旨と合致したプログラムといえ、国際的な大学間協働教育の模範的モデルとして構築される可能性が高い。積み上げ式協働教養プログラム、協働ダブルディグリープログラムなど、両大学が協力・連携して教育を行うことについて、細部まで丁寧に計画されていることが伺え、その計画通り実施されることにより、大きな成果が上がることを期待したい。また、グローバル・コミュニケーション、東南アジア研究、キャップ・ストーン科目などで両大学が共同で教員の協働の下、授業を開講することは高く評価され、日米の大学の教員が共同で第3国においてフィールドワークを実施する点も、学生・教員双方の学びの良い機会となることが期待される。さらに、APU-SEU キャップ・ストーン科目における両大学の教員が、共に参加するラーニング・コミュニティの形成も新規性が高いだけでなく、大きなラーニング・アウトカムが期待できる。</p> <p>単位互換において UCTS をフルに活用していることは高く評価される。単位の相互認定、成績管理、アカデミックカレンダーの相違への対応、単位の実質化などにおいて日本の大学がグローバル化に対応する際のモデルとなるべきものをすでに実施している。海外からの教員採用、英語による授業のFD、国際的な業務に関するSD等においてもグローバル・スタンダードを十分意識した取り組みがすでに確立している。また、入学前留学プログラムと入学前教育（英語学習）は画期的であり、外向き指向の学生養成と異文化理解力の基盤醸成を含め大きな効果が期待できる。</p> <p>しかしながら、相手大学との合意が一般的な大学間交流協定書のみとなっている点が若干懸念されるため、本構想を協働で実施することについて、文書等で明確に取り交わされることが望ましい。</p>	